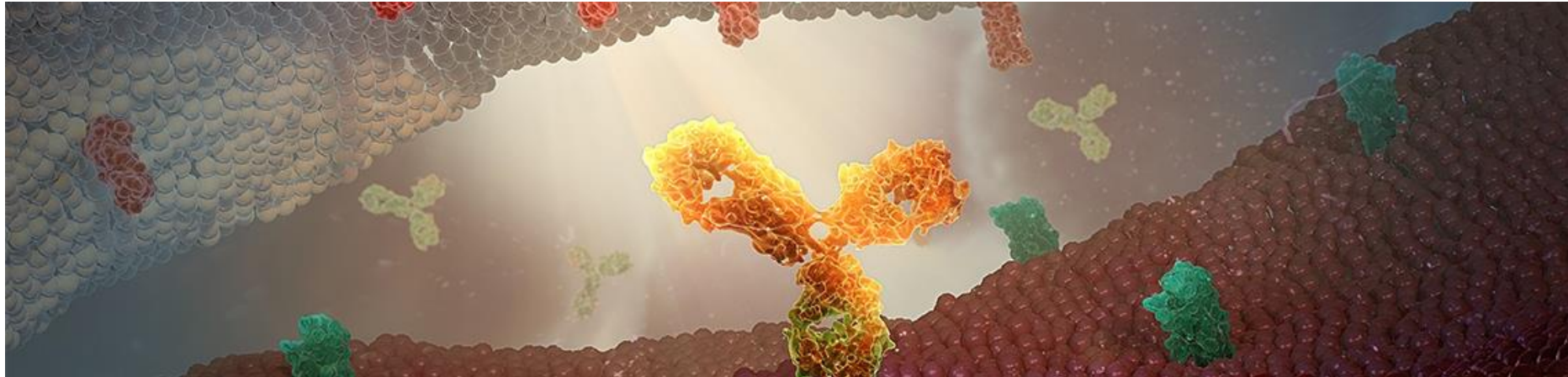


# 「遺伝性乳がん・卵巣がん(HBOC)」 に関する認知・理解度調査レポート

アストラゼネカ株式会社

2016年10月



# 目次

1. はじめに
2. 調査概要
3. 調査結果要約
4. 監修 桜井 なおみ氏による結果概説
5. 調査結果詳細



1

はじめに

2

調査概要

3

調査結果要約

4

監修 桜井 なおみ氏による結果概説

5

調査結果詳細



# はじめに

「遺伝性乳がん・卵巣がん(HBOC)」は、親から受け継がれた、特定の病的な遺伝子変異が要因となり発症する「遺伝性腫瘍」の一つであり、BRCA1 あるいは BRCA2 というがん抑制遺伝子の生まれつきの変異が原因で発症します\*。また、HBOC特有の以下のような特徴がみられます\*。

- 若年性(若年で乳がんを発症する)
- 多発性(片方の乳房に複数回乳がんを発症する)
- 重複性(乳がんと卵巣がんの両方を発症する)
- 遺伝性(BRCA1およびBRCA2遺伝子の変異は、親から子へ、性別に関係なく50%の確率で受け継がれる)
- 家系内に乳がんや卵巣がんになった人がいる

HBOCの診断では、患者さんご本人の生活や治療に与える影響だけではなく、患者さんのご家族に対する様々な影響についても考慮する必要があります。このため、乳がん・卵巣がん患者さんと患者さんを支える社会全体がHBOCについて正しい知識と理解をもつことが求められます。海外においては、HBOC患者さんとそのご家族を支える様々な活動が展開されている地域もありますが、国内では、HBOCに関する情報提供や社会支援はまだ限定的です\*\*。

今回、アストラゼネカ株式会社は、HBOCの社会的理解向上の一助とすることを目的として、国内の乳がん・卵巣がん患者さんにおけるHBOC認知・理解度に関する調査を実施しました。

\*日本HBOCコンソーシアム(2015)「遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)をご理解いただくために(ver.3)」p.3

\*\*清水 千佳子 et al. (2015) 挑戦的萌芽研究 科学研究費助成事業研究成果報告書「乳癌・卵巣癌患者における遺伝相談・遺伝子検査に関する情報提供支援プログラムの構築」(課題番号24650651)



1

はじめに

2

**調査概要**

3

調査結果要約

4

監修 桜井 なおみ氏による結果概説

5

調査結果詳細



# 調査概要

調査時期： 2016年9月

調査手法： オンライン調査  
(マクロミル・ネットモニターを利用)

調査対象者： 乳がんまたは卵巣がんを治療中の患者さん、もしくは  
乳がんまたは卵巣がんの治療経験のある方 計104名

監修： キャンサー・ソリューションズ(CANSOL)株式会社  
代表取締役社長 桜井 なおみ氏



1

はじめに

2

調査概要

3

**調査結果要約**

4

監修 桜井 なおみ氏による結果概説

5

調査結果詳細



# 調査結果要約

乳がん・卵巣がん患者さんであっても、「遺伝性乳がん・卵巣がん(HBOC)」の認知度は約半数  
—乳がん・卵巣がん患者さんに対するHBOCについての情報提供のニーズが明らかに—

**【乳がん・卵巣がん患者であってもHBOCの認知度は約半数。また、HBOCを知っていても、そのリスクについて理解している人は少ない】**

- 乳がん・卵巣がん患者さんでもHBOCの認知度は約半数の55.8%に留まった。
- HBOCを「知っている」と答えた患者さんでも、HBOC特有の発症リスクを理解している患者は5割以下。

**【診断や治療の過程でHBOCを認知している乳がん・卵巣がん患者さんは少数】**

- 乳がん・卵巣がん患者さんが治療法検討時に最も信頼できると感じている情報源は、「医師」。
- しかし、実際に乳がん・卵巣がん患者さんがHBOCを認知したのは、テレビなどのマスメディアの情報源が上位を占めている。

**【HBOCについて説明を受けた患者さんは、自身だけでなく親族に生じうるリスクを意識】**

- HBOCに関する情報提供したところ、「自分には関係がないと思った」と回答した乳がん・卵巣がん患者さんはわずか28.8%。
- 回答者の約7割が「自分の子どもなど親族のことが心配になった」、「自分の乳がん・卵巣がんが遺伝性なのか知りたいと思った」など、自身のがんとHBOCの関連性を意識した。





1

はじめに

2

調査概要

3

調査結果要約

4

監修 桜井 なおみ氏による結果概説

5

調査結果詳細



# 監修 桜井 なおみ氏による結果概説

今やがんは不治の病ではなく、長く共に歩んでいく病気。特にHBOCのような遺伝性腫瘍は若くして発症する可能性が高く、一般的ながんよりも長く自身のがんと向き合うことになる。患者が前向きに治療に臨み、社会で活躍し続けるためには、十分な疾患の理解、リスクの把握と正しい対処がとても重要。患者にとって、知識はパワーになる。

HBOCのような遺伝性腫瘍は「自身のがん＝家族のがん」となる可能性もあるため複雑な状況になりやすい。患者自身と家族が共に主体的に（既往もしくは未発症の）がんに向き合うために、社会全体のがん教育への意識の向上、遺伝性ならではの問題を適切に支援する体制整備など早急な改善を要する課題が多い現状を本調査は改めて浮き彫りにした。



1

はじめに

2

調査概要

3

調査結果要約

4

監修 桜井 なおみ氏による結果概説

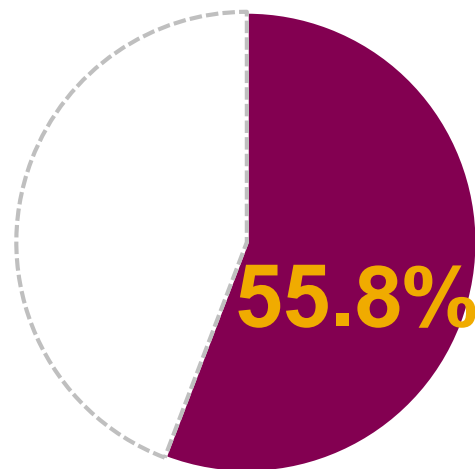
5

**調査結果詳細**



## 乳がん・卵巣がん患者さんでも 「遺伝性乳がん・卵巣がん(HBOC)」の認知は約半数

- HBOCは、若年性や多発性などの特徴から、乳がん・卵巣がん患者さんの治療生活に大きな影響を与える可能性があるが、乳がん・卵巣がん患者さんにおける「遺伝性乳がん・卵巣がん(HBOC)」の認知度は、55.8%に留まる。



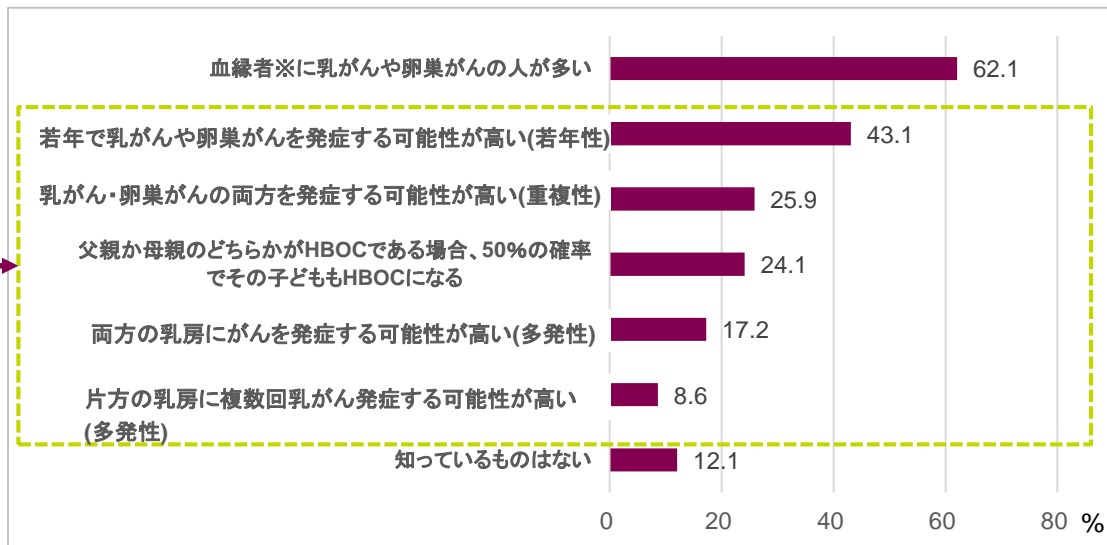
遺伝性乳がん、卵巣がん(HBOC)の認知度 (N=104)



# 「遺伝性乳がん・卵巣がん(HBOC)」を知っていても そのリスクまでは認知されていない

- HBOCの特徴として、最も認識されているのは「血縁者※の乳がん、卵巣がん発症者の有無」で62.1%。
- 自身のがんの症状に関連する可能性のHBOCのリスク(若年性、多発性、重複性)の認知はすべて50%以下。
- 「遺伝性」疾患の特徴である、血縁者※に関わる可能性のあるHBOCのリスク(子どもへの遺伝確率の)認知は24.1%であった。

Q. HBOCの特徴について、あなたをご存知なものをすべてお選びください。(N=58)



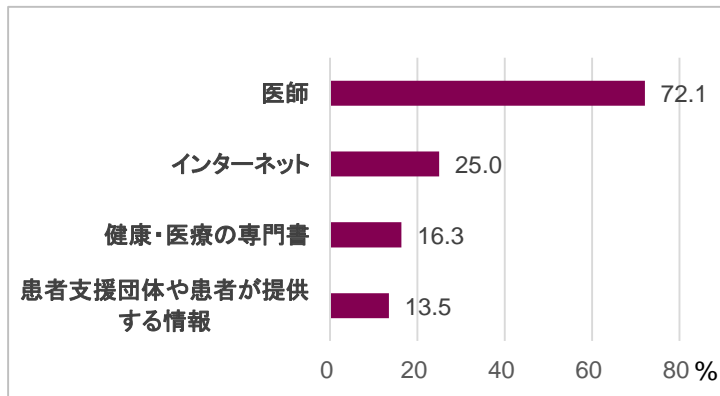
HBOC特有の患者自身もしくは血縁者※に関わるリスク



# 診断や治療の過程で「遺伝性乳がん・卵巣がん(HBOC)」を認知している乳がん・卵巣がん患者さんは少数

- 乳がん・卵巣がん患者さんが治療法検討時に信頼できると感じている情報源として最も多かった回答は、「**医師**」(72.1%)。
- 一方、実際のHBOCの認知経路でもっとも多かったのは、「**テレビ、ラジオ**」(60.3%)、次いで「**インターネット**」(37.9%)、「**新聞、雑誌**」(27.6%)と、**マスメディアからの情報入手がほとんどで、診断や治療の過程(医師)でHBOCの情報を得ている乳がん・卵巣がん患者さんは少数**

Q 治療法を検討する際の情報源の中で信頼できると思うもの上位3つを選んでください。(N=104)



遺伝性乳がん卵巣がん(HBOC)の認知経路(N=58)

	認知経路	%
1	テレビ、ラジオ	60.3%
2	インターネット	37.9%
3	新聞、雑誌	27.6%
4	家族・親戚、友人・知人	19.0%
5	医師	15.5%

上位3つを  
マスメディアからの  
情報が占める



## 「遺伝性乳がん・卵巣がん(HBOC)」に関して、以下の情報を提示した

- ◆ 遺伝性乳がん卵巣がん(HBOC)とは遺伝性のがんの一つです。
- ◆ BRCA1 あるいは BRCA2 遺伝子というがん抑制遺伝子の変異を生まれつき持っています。
- ◆ HBOCは、通常の乳がん・卵巣がんよりも若くして罹患する傾向が強く、乳がんと卵巣がんの両方を発症する可能性が高いです。
- ◆ また、乳がんではトリプルネガティブ(エストロゲン受容体・プロゲステロン受容体・HER2に対する受容体がない)乳がんを発症したり、両方の乳房に発症、もしくは片方に複数回発症する特徴があります。
- ◆ 遺伝性の疾患であるため、BRCA1/2遺伝子の変異は、親から子へ、性別に関係なく50%の確率で受け継がれます。
- ◆ HBOCの発症が心配な場合は、専門の医師やカウンセラーに相談し詳しく説明を受け、将来の健康について専門家の意見とアドバイスを受けることが勧められます。

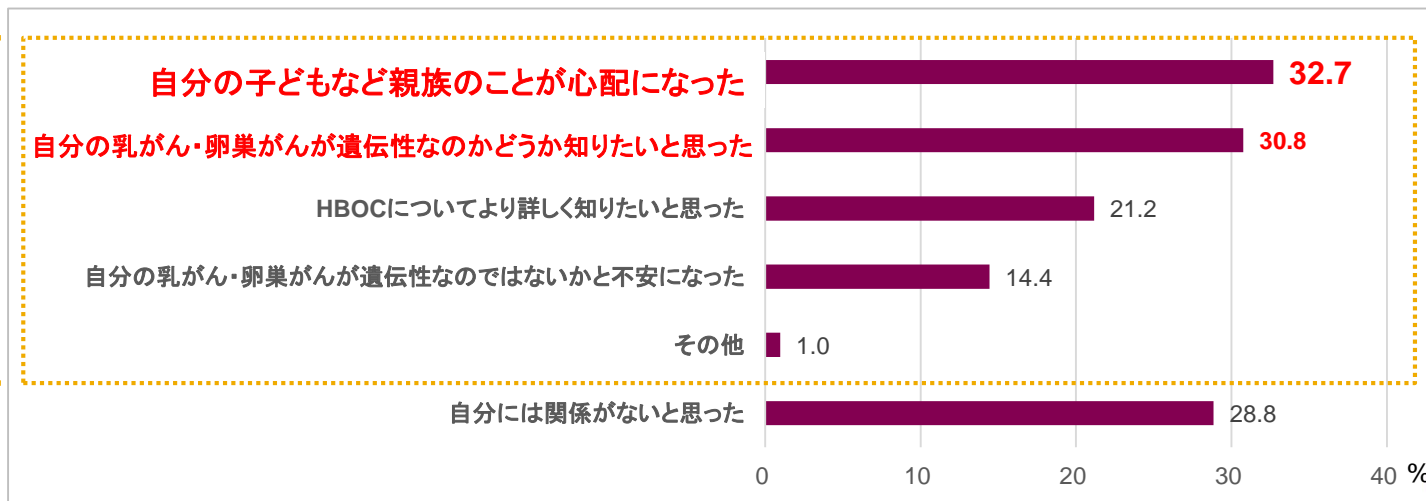


# 「遺伝性乳がん・卵巣がん(HBOC)」を知ること、自身だけでなく、親族に生じるリスクを意識

- 調査の中でHBOCの説明を受けた乳がん・卵巣がん患者さんで「自分には関係がないと思った」と回答したのはわずか28.8%と少数。
- 70.2%の回答者が、HBOCを知ること、「自分の子どもなど親族のことが心配になった」(32.7%)、「自分の乳がん・卵巣がんが遺伝性なのか知りたいと思った」(30.8%)など、自身のがんとHBOCの関連性を意識。

Q. 遺伝性乳がん卵巣がん(HBOC)に関する説明文を読んで、どのように感じましたか。当てはまるものをすべてお選びください。(N=104)

自身のがんと  
HBOCの関連性を  
意識した回答者  
**70.2%**

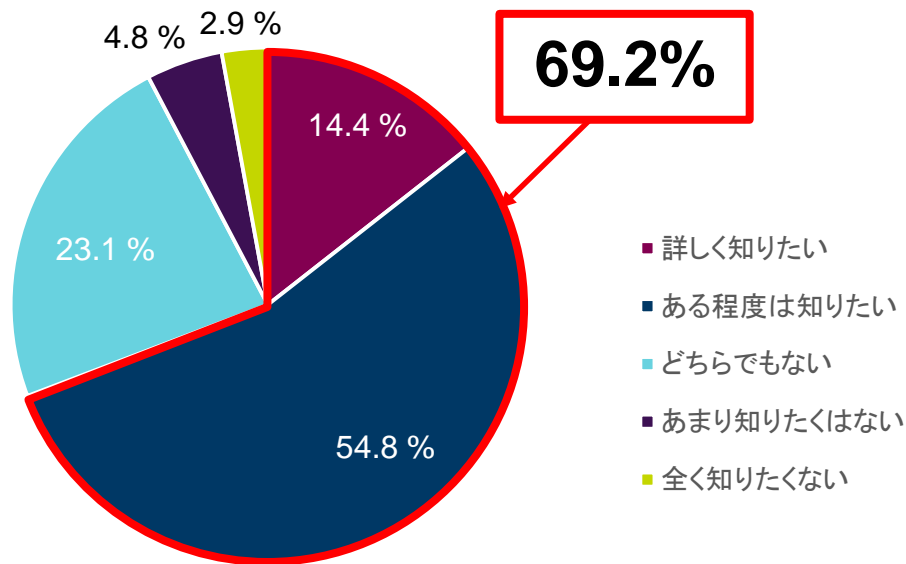




# 「遺伝性乳がん・卵巣がん(HBOC)」について知った 乳がん・卵巣がん患者さんのHBOCに対する情報ニーズは高い

- 調査の最後に、今後もHBOCについて知りたいかどうか聞いたところ、「詳しく知りたい」、「ある程度は知りたい」と回答した乳がん、卵巣がん患者さんは**69.2%**。
- HBOCを知ることによって、患者さんのHBOC情報に対するニーズが生まれていることが伺える。

Q あなたは、今後、遺伝性乳がん卵巣がん(HBOC)に関して、詳しく知りたいと思いましたか。(N=104)



## 遺伝性乳がん・卵巣がん(HBOC)について

HBOCは遺伝性腫瘍の一つで、BRCA1 あるいは BRCA2 というがん抑制遺伝子の生まれつきの変異が原因で発症します。HBOCでは、通常の乳がん・卵巣がんよりも若くして罹患する、乳がんと卵巣がんの両方を発症するという特徴があります。また、乳がんではトリプルネガティブ乳がん\*や、両方の乳房に発症、もしくは片方に複数回発症するという現象が見られることがあります。遺伝性の疾患であるため、BRCA1およびBRCA2遺伝子の変異は、親から子へ、性別に関係なく50%の確率で受け継がれます。HBOCに関する自身および家族の遺伝子変異はBRCA1/2遺伝子検査\*\*によって確認することができます。HBOCの発症の可能性やさまざまな不安については、専門の医師やカウンセラーに相談し、アドバイスを受けることができます。

\*ホルモン療法の対象となるエストロゲンとプロゲステロンという2種類の女性ホルモン受容体がなく、トラスツズマブという薬剤の治療対象となるHER2受容体の過剰発現もない乳がんのこと。悪性度が高く、現在治療選択肢が限定されている。(国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター2015 : [http://ganjoho.jp/public/qa\\_links/dictionary/dic01/tripplenegative.html](http://ganjoho.jp/public/qa_links/dictionary/dic01/tripplenegative.html) より一部改変 2016/10/18参照)

\*\*2016年10月現在本邦において国内未承認

## アストラゼネカにおけるオンコロジー領域について

アストラゼネカはオンコロジー領域において歴史的に深い経験を有しており、急速に拡大しつつある患者さんの人生と当社の将来を変革する可能性のある新薬ポートフォリオを保持しています。2014年から2020年までの期間に発売を予定する最低6つの新薬および低分子・バイオ医薬品の広範な開発パイプラインを有する当社は、肺がん、卵巣がん、乳がんおよび血液がんに焦点を当て、New Oncologyをアストラゼネカの6つの成長基盤のひとつとして進展させることに注力しています。中核的な能力に加え、Acerta Pharma社を介した血液学領域への投資に象徴されるように、当社は戦略を加速する革新的な提携および投資を積極的に追求していきます。がん免疫治療、腫瘍ドライバー遺伝子と耐性、DNA損傷修復および抗体薬物複合体の4つの科学的基盤の力を強化し、個別化された併用療法の開発を支持することで、がん治療のパラダイムを再定義し将来的にはがんによる死亡をなくすことがアストラゼネカのビジョンです。

## アストラゼネカについて

アストラゼネカは、イノベーション志向のグローバルなバイオ・医薬品企業であり、主に呼吸器・炎症・自己免疫疾患 (RIA)、循環器・代謝疾患 (CVMD)、オンコロジーの3つの重点治療領域ならびに感染症およびニューロサイエンスの領域において、医療用医薬品の創薬、開発、製造およびマーケティング・営業活動に従事しています。当社は100カ国以上で事業を展開しており、その革新的な医薬品は世界中で多くの患者さんに使用されています。詳細については<http://www.astrazeneca.com>をご覧ください。

